

回顧の機会 潮流の中で我を見つめる

山本昭夫 (YAMAMOTO, Akio)
学習院高等科(Gakushuin Boys' Senior High School)
akio.yamamoto@gakushuin.ac.jp

問題の所在

- 世界が小さくなった
 - 人の移動・モノの移動・情報の移動
 - グローバル化と情報化
 - 国家・地域の垣根が低くなった
- どこでも通用する力が求められる
 - IB
- IB導入200校
 - 高等学校への影響
 - 大学への影響
 - 今までの学校教育は？
 - 何が良くて、何が問題か
- 学校枠外、枠内（時間、予算、人的資源）

潮流とその支流1

- グローバル化

- 英語教育改革

- 小学校英語必修化・若年齢化

- 到達目標

- 民間委託試験（4技能）

- デジタル教科書

- 教員研修

- 留学

- 留学して帰ってこない！

- 頭脳流出

- 負け！？

支流2

● IB

● 200校(「日本再興戦略」(H25年6月閣議決定))

- 初等中等教育質向上＋大学国際化・活性化

- 高大

- アクティブ・ラーニング

- Outcome重視

- カリキュラム・マネジメント

- 入試

- 基礎学力テスト

- 学力評価テスト

- 思考力・判断力・表現力

- →IB

元々の潮流

- 元来

- Who are we?
- What have we done?



- 振り返り

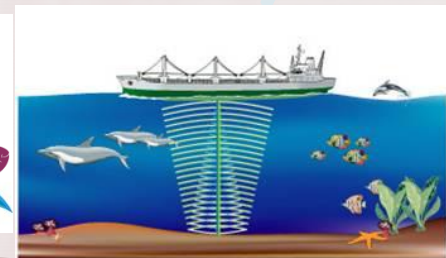
- 何が良いくて何が改善すべきことか

- 自己点検



- 潮流と潮流のぶつかるところは、好漁場(潮目 current rip)

- 潮目は危険



問題への対処

- Connecting the dots (the present, past, and the future).
- 回顧の機会
 - 懐古・解雇ではなく回顧
 - 古来日本が行ってきたことは？
 - 今までの学校教育は？
 - 何を得て、何を失うか？
- 改善案の提示

回顧

- 日本という方法
 - 日本的編集方法—松岡正剛
- 絶対矛盾的自己同一—西田幾多郎
- 学習院の回顧
 - 言語技術の会(1983)
 - 学習院教育調査問題会 国語教育分科会(1977)
 - 「心情の伝達に関しては従来の国語教育、作文教育が効果をあげていますので、言語技術の会の努力はもっぱら情報と意見の伝え方に集中しています」木下是雄(1990)
 - 2008年フォーラム
 - グローバル時代の教育—知の探究者を育てるカリキュラムの構築」
 - SGLI

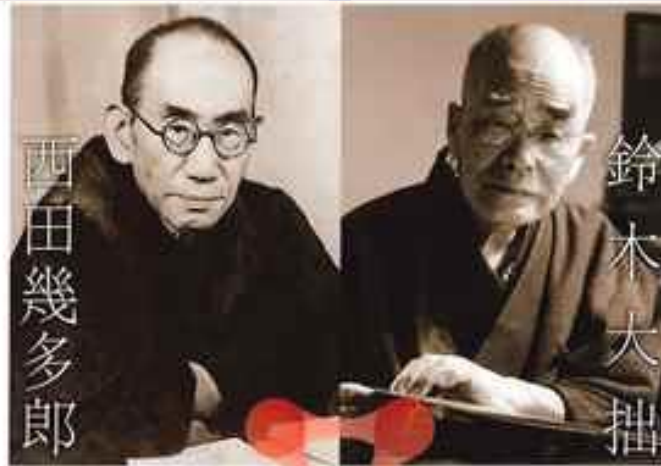


モダン

● 学習院



西洋と東洋



講師
松岡正剛

経典工学研究所所長・オーストラリア大学教授

学習院

西田幾多郎と鈴木大拙。
この世界的な思想家・思想家は、
京都の西田学院の同級生であり、
生涯を通じて親友でもありました。
二人が対決した唯一の場所が、
東京・自由の学習院です。
北海道新聞の調査員が、
ふたりの故郷に立つふたりの思想家、
そして学習院大学という二重は、
特別講演会を開催いたします。

特別講演会

矛盾を編集する力

西田幾多郎と鈴木大拙

石川県

● 1周遅れのトップランナー (中西陽一)

● 前田藩

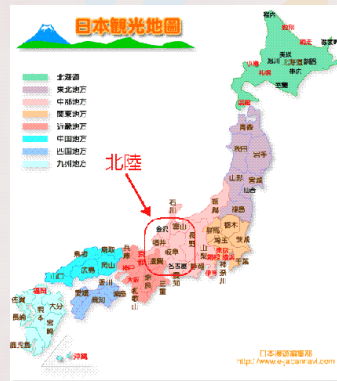
● 新旧

● 東西

● 公武を編集 (by Seigo)

● 政治—江戸

● 文化—京



日本の編集方法—松岡正剛

- 神仏
- 仮名、英語
- 元号と西暦、旧暦
- 氏名(バラク・オバマ、Shinzo Abe)
- 和洋
- 寺子屋と学校？
- 学習指導要領とIB？

絶対矛盾的自己同一——西田幾多郎

- 松岡正剛解釈 (2006)
 - 多項同体
- 檜垣立哉解釈 (2005)
 - 「多の一」
 - 「機械論的」
 - 相互限定なくして個別的に存在してしまう「個物的多 (=要素的な何か)」を想定して、そこから「一 (=全体)」の場面を構成していく
 - 世界を「過去」から「未来」へととらえる
 - 「一の多」
 - 「目的論的」
 - 「全体的一」という場面を、個物的な事象が存在する以前にどこかに設定して、「一」へと向かう運動
 - 世界を「未来」から「過去」へととらえていく
 - 無限と有限の交錯(内包的なものと外延的な者の交錯)
 - 「我々の生命は、主体が環境を、環境が主体を、主体と環境との相互限定にあるのである」(11-314)
- アフォーダンス

多項同体

- 「多の一」
 - 従来の知識(過去の)蓄積型
- 「一の多」
 - 探究型、outcomes型、ルーブリック
- どちらかではなく、どちらも
 - 西田的

学習院の回顧—2008年フォーラム

● きっかけ

- 2006年5月 St. Paul's 視察
- 2006年「外国人研究者及び教育者招聘事業」
 - 「教育のグローバル化に対応するために—探究型カリキュラムを研究する」

● 2008年フォーラム

- IB
- AP in high schools in the US
- ELP in ICU
- 探究学習

● 学習院の教育

- 漢学
- 英語教育
- 言語技術の会(1983)
- 総合的な学習の時間

英語教育in 学習院

- G.F. Verbeck (1877～1878)
- 1876年Philadelphiaで開催されたアメリカ合衆国独立100年記念国際博覧会に文部省はAN OUTLINE HISTORY OF JAPANESE EDUCATIONの英訳担当
- 松田一橘(1902～1906)
 - 日本で初めて蓄音機を教室で使った
- Anna C. Hartshone (1904～1906)
 - Japan and Her Peopleの著者で、その本の中にはHartshoneが新渡戸稲造の『武士道』の英語を助けたと言われる。津田梅子の友人でもあり、津田塾大学の本館「ハーツホン・ホール」は、関東大震災後の津田塾再建に貢献した彼女の名前に由来している。
- Harold E. Palmer (1922～1927)
- 鈴木大拙(1909～1921)
- 学習院イングリッシュセミナー(1989年～)
- 学習院英語力養成コース (1995年～)

DP in St. Paul's School, MD

● 良い点

- よい教え方
- たくさんの宿題
- 大学受験有利

● 問題点

- 導入準備不足
- たくさんの宿題で寝不足
- 良い成績の生徒のみ対象
- APテストとの関わり合い
- 授業準備
- 教員訓練に費用と時間
- 先輩の評判を聞いて受講しなくなる(修了生は1～2割)

学習院フォーラム
2008

MYP and DP in 加藤学園

- IB取得者は光り輝いている！
- あえて尋ねます。「IBの影は？」
 - 生徒「とにかく過酷」
 - 費用面
 - 教員研修
 - IBのグループ化
 - 国内基準と世界基準の間
 - 国内大学の壁

学習院フォーラム
2008

ELP in ICU

学習院フォーラム
2008

- English Language Proficiency
- 「地球市民の育成」
- 「一般性」
 - 正確な理解力、批判的思考力、自己表現力、学問的探求能力、問題解決能力
- 「解放性」
 - 多様性の認識、多角的な視点の獲得、自己の世界からの解放、自己の視点の認識・獲得
- 「責任性」
 - 自己、グループ、セクション、ICU, 日本、世界
- 入学時
 - 「世界人権宣言」に署名
 - 自身の受けた教養教育を人類社会に還元することを誓約

探究型カリキュラム

- 千里国際学園中部・高等部
- 大阪インターナショナル・スクール
 - Five respects
 - 「自分を大切にする」「他の人を大切にする」「学習を大切にする」「環境を大切にする」「リーダーシップを大切にする」
- 問いかけベースの体験型の科学教育と環境教育
 - 教えない教育
 - 本質に迫る6つの問い
 - なぜそうなる？どうなってる？なんのために？どう変わっていく？どうつながってる？別の見方は？(市川, 2009)
- Thought Swap
 - Think, Pair, Share, find & Try
- 概念創造型⇔概念提供型
- 「旧くて新しい」学びのスタイル
- 4つのR
 - Review, Research, Report, & Reflection

学習院フォーラム
2008

総合的な活動の時間 in 高等科

● 総合的な活動の時間 in 高等科

- 「読む」「書く」「話す」

- 学際的分野

- 教員のアイデア・情報の蓄積と技量向上

学習院フォーラム
2008



総合的な活動の時間一覧(2008)

「映画を見る」	「体脂肪を燃やそう」
「俳句・短歌をつくる」	「自然災害を考える」
「暴力の倫理学」	「エコロジー」
「音楽と政治」	「国際理解・国際協力入門」
「東京の地誌」	「ハングルを学ぼう」
「博物館を知ろう」	Critical Reading and Discussion
「英語で読む数学」	「声に出して覚えるドイツ語」
「写真を撮る・見る」	「総合音楽」
「サイエンス入門：アインシュタイン入門」	「フランス語・フランス文化入門」
「コンピュータグラフィックス」	

総合的な活動の時間一覧(2015)

「通史でない世界史」	「体脂肪を燃やそう」
「短詩型文学の創作と鑑賞」	「英語の歌詞を読む」
「暴力の倫理学」	「スポーツ指導・理論・実践」
「音楽と政治」	「国際協力入門」
「数学的経験入門」	「ハングルを学ぼう」
「博物館を知ろう」	「総合音楽」
「生命科学入門」	「声に出して覚えるドイツ語」
「写真を撮る・見る」	「フランス語・フランス文化入門」
「文芸作品を朗読で味わう」	「文化としてのスポーツフットボールと英国社会」

問題点

- 高2のみ単年
 - 翌年に卒業論文でも
 - 学習院女子、早稲田高等学院、立教女学院、中大杉並、麻布、...
- 探究しているか？
- 論文の書き方、発表の方法
- 他教科との接続
- 将来との接続
 - 国際協力入門
 - 南アフリカで語学学習
 - アルゼンチン留学

留学準備

- Workshop for academic skills
 - Thesis statement
 - Debate
 - Concrete v.s. abstract
 - Reasons
 - Becauseの中身がpoor
- アメリカの私立学校出前授業
 - Math, films and American culture, journalism, Shakespeare, International politics

議論する、発表する

- 議論する時...
 - 言語使用
 - 思考回転
 - 対人注意
 - 環境・状況変化の把握
 - 文脈
- 外国語副作用 by 高野(1995)
- 「言語副作用」
 - Art

語学教育の問題点

- 役立たない・使えない

- 500 words essay
- 3 min. speech
- 1st chapter of paperback
- TED talk
- Discussion

- 理由

- 文法訳読
- 分断された知の山
- 分断された頭と心
- 時間数
- クラスサイズ
- 教員
- 授業という枠

改善案

- 規格内と規格外の統合
- 教科書を越えた言語活動
 - 探究型学習
 - 京都市立堀川高等学校
 - 学びを生き方に結びつける人の育成(市川)
- 情報リテラシー向上
 - 卒論指導
- 分断された知の山
 - 知の統合
 - 穴埋め問題ではなく、キーワード説明問題
 - 頭と心の統合
 - 語らせる→Shadowing & 暗唱
 - Dr. King, President Obama, and Steve Jobs, ...
- ICT活用
 - 協働
 - 個別対応
 - 一斉
 - 訓練
 - 情報収集
 - 蓄積と編集

【穴埋め問題】 Sometimes life is going to () you in the head with a brick. Don't lose ().

【キーワード問題】 「次の語を使ってJobs氏の台詞を書きなさい。

[life, hit, head, brick, faith]

学びを生き方に結びつける人の育成(市川, 2009)

● 探究学習が育成する人物のプロファイル

- 広く深く思索し続ける人
- 自分を信じ自分を大切にする人
- 主体的に行動する人
- 困難に出会っても粘り強くやり遂げる人
- 互いの理解を深めるためにやり取りを重ねる人
- とともに生きる人や自然を感じ思いやる人

子どもをつかむ「GRASP」(市川, 2009)

- Generate(駆り立てる)
- Release(見守り、任せる)
- Accept(受容する)
- Show(見せる、魅せる)
- Participate(参加する)



評価(市川, 2009)

- 従来
 - 「知識」 → 「記銘」 → 「保持」 → 「再生」 「再認」
- Spiral-up Model
 - 「知識」 → 「組み換え」 → 「新たな知識」 → 「検証」 → 「組み換え」 → 「新たな知識」 → ...
- MARVELモデル(市川, 2009)
- Motivation
- Acquisition
- Real experience
- Vitality
- Education
- Learning



プロジェクト型

- 教室を出よう
- 1年間かけよう
- プロジェクトに参加
 - SGLI
 - <https://www.youtube.com/watch?v=gzLGs4jMOik>
- プロジェクトをつくる
- 学校という枠をはずし、また学校という枠をはめる
- 「一の多」

- **United States**

- Cary Academy (Raleigh, NC)
- Castle High School (Kane'ohe, HI)
- Castilleja School (Palo Alto, CA)
- The Chapin School (New York City, NY)
- The Haverford School (Haverford, PA)
- Lakeside School (Seattle, WA)
- Noble and Greenough School (Dedham, MA)
- Phillips Exeter Academy (Exeter, NH)
- Punahou School (Honolulu, HI)
- Sidwell Friends School (Washington, D.C.)
- St. Paul's School (Baltimore County, MD)

- **China**

- Chinese International School (Hong Kong)
- High School Affiliated to Fudan University (Shanghai)
- High School Affiliated to Renmin University of China (Beijing)
- Shanghai #3 Girls School

- **Denmark**

- Ordrup Gymnasium (Charlottenlund)

- **England**

- Hitchin Girls School (Hertfordshire)

- **India**

- Oakridge International School (Hyderabad)

- **Japan**

- Doshisha International Schools (Kyoto)
- Gakushin Boys Senior High School (Tokyo)
- Gakushuin Girls Junior and Senior High School (Tokyo)
- International Christian University High School (Tokyo)

- **Jordan**

- King's Academy (Madaba – Manja)

- **Republic of Korea**

- Daewon Foreign Language High School (Seoul)

- **Sweden**

- Viktor Rydberg School (Djursholm)

Stay hungry, stay foolish.

- At Stanford University
- For commencement
- In 2005
- By Steve Jobs
- Outsiderに何度もなった人のことば「枠を外す」
- 「腹ペコであれ、愚かであれ、人の言うことを聞くな」
- 「限りある命を大切に使いなさい、一見無駄に思えることでも将来役に立つこともある、辛い経験はときに人生の良薬になる、よって自分の考えや思いが『常識』からずれていたとしても、大切にしなさい」
- <https://www.youtube.com/watch?v=UF8uR6Z6KLc>

まとめ

- 回顧の機会
 - 自分たちの行いは何のためなのか
- 日本の編集
 - 西洋と東洋
 - 見通しを立てて日本風にするか
 - 結果として日本風になるか
- 統合
 - 枠をはずして枠をはめる
 - 頭と心
 - 自己と環境
- 「二兎を追う」
- Stay hungry, stay foolish.

参考文献

- 市川力. (2009). 『探究する力』 知の探究社.
- 木下晃雄. (1990). 『実践・言語技術入門—上手に書くコツ・話すコツ』 朝日選書. 396.
- 高野陽太郎. (1995). 『認知心理学 2 記憶』 東京大学出版会.
- 檜垣立哉. (2005). 『西田幾多郎の生命科学—ベルクソン、ドゥルーズと響き合う思考』
- 松岡正剛. (2006). 『日本という方法』 NHK Books.
- 【特集】 学習院フォーラム「グローバル時代の教育 知の探究者を育てるカリキュラムの構築」報告. 学習院高等科紀要. 第7号. (2009).
- 「教育現場でいま求められていること～2020年に向けてキーワードをよみとく～」配布資料. 成蹊大学. 2015年3月5日
- 「二兎を追いながら自立する18歳を育む」カレッジマネジメント155/ Mar.-Apr. 2009.